

## B2. 【肝腫大について】

肝腫大の原因には炎症、胆汁うっ滞、蓄積（脂肪肝や代謝疾患）、線維化（門脈圧亢進）、鬱血、および腫瘍があり、いずれも肝機能異常を伴う。肝腫大に脾腫大を伴う原因としては、伝染性単核球症（EBウイルス感染症）、線維化（門脈圧亢進）、蓄積、および（血液）腫瘍がある。ただし、蓄積病では Gaucher 病、アミロイドーシス、Niemann-Pick 病、Wollman 病（酸性リパーゼ欠損症重症型）で高度の肝脾腫がみられるが、糖原病や脂肪肝では脾腫を伴わない。循環系の負荷、すなわち門脈圧亢進の存在や右心不全では肝腫大とともに様々な程度の脾腫大が認められる。

急性肝炎において重要なことは、肝腫大は発症から急性期にしばしば右季肋下の圧痛を伴って出現し、病状の改善に伴って退縮するが、腫大肝の急速な縮小は劇症化（肝細胞の急速な壊死あるいは細胞死）の徴候であるため注意を要する。